

神奈川県作業療法士会ニュース150号 目次

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 巻頭言 | 10 地域リハビリテーション部より |
| 2 総会・学会報告 | 12 各部からのお知らせ |
| 4 震災復興ボランティア体験記 | 13 理事会抄録（6月15日分） |
| 6 青年海外協力隊通信（第3回） | 14 求人広告・講習会案内 |
| 8 OTのためのIT講座 | 16 ここへ行ってきた「学会参加報告」 |

巻頭言

～新理事紹介～

神奈川県作業療法士会 理事
佐藤病院 作業療法士 小峰一宏



今年度、理事を務めさせていただくことになりました。

就任したからには、神奈川県作業療法士会を魅力あるものに発展していくため、最大限に尽力していきたいと思います。

今回、巻頭言の場をお借りして、施設紹介をさせていただきたいと思います。

私が勤務する佐藤病院は、京浜急行線南太田駅徒歩2分、横浜・みなとみらい近郊に位置しています。町の中心には大岡川が流れ、都会と自然が調和した下町のような雰囲気を持ち合わせ、桜の季節は花見名所として、各地から見物客が訪れます。

当院は大正2年創立と歴史も長く、住民の方々に長年利用されています。町を歩けば、患者さんに会う。と言っても良いくらい馴染みの患者さんが多く、近隣に住む方にとって常に身近な存在にある病院です。

そのような当院だからこそ、大都市圏が遭遇する超高齢化社会、社会構造の急激な変化の荒波を真正面から受け止めています。特に南区、近接する西区、中区、港南区近郊は、高齢者や障害者数、及び生活保護率がダントツで高い状況にあり、バラエティ豊かな患者さんがたくさん訪れます。かなりショッキングな状況の方も多く、医療・保健・福祉から支える幅広い視点に立ったりリハビリテーションが必要になります。

そんな人達がまた笑顔で幸せになれるように、小規模ながら亜急性期、回復期、維持期や外来・訪問

による人員体制を整え、中枢・整形・呼吸・代謝・循環・嚥下・介護等、「なんでも来い」のリハビリテーションを目指しています。

最後になりますが、当院リハビリテーション科が主催する研修会サイトを紹介します。様々な分野の研修会を実施しています。興味のある方は是非覗いてみてください。

<NDK横浜研修会>

<http://www1.c3-net.ne.jp/NDKYOKOHAMA/>



第3回 定期総会報告

総会って何？

みんなで意見を出し合い、確認し、1年間の自分達の団体活動を承認する場です！
知っていますか？年会費は県士会の運営と皆様のために大切に使われています。

平成23年5月28日(土)午後16時20分より、ゆめおおおかオフィスタワー内 ウィリング横浜124号室において、一般社団法人神奈川県作業療法士会第3回定期総会が開催されましたので、その模様をお伝えします。

澤口事務局長司会進行役が開会の辞のあと、総会参加者より議長、副議長、議事運営委員、書記、議事録署名人が選任されました。平成23年5月28日現在の会員数は1587名で総会出席者は59名、委任状数は631名で議決権の数が正会員数の3分の1となり総会は成立しました。委任状の提出、並びに総会出席のご協力誠にありがとうございました。会長挨拶ののち、審議に入りました。

議長の進行のもと、6つの議案が提出され（第1号：平成22年度事業報告、第2号：平成22年度決算報告と鑑査報告、第3号：一般社団法人神奈川県作業療法士会 規則・規定の制定および変更について、第4号：平成23年度事業計画、第5号：平成23年度予算案、第6号：役員選任の件）議案はすべて承認されました。また質疑も活発に行われましたので、内容を以下に記します。

横浜市立脳血管医療センター・山田氏より、「第13回神奈川県作業療法学会は是非開催してほしい。地震の影響の為に困難ならば、本日の総会時などに縮小するあるいは延期等してでも開催できなかったのか？」という質問があり、渡邊会長より「神奈川県作業療法臨床研究大会の開催の為に予算も計上したので、ご了承いただきたい」と答弁がありましたが、それを受けて、「現在の県学会の規模が大

きすぎるのではないか？」との率直な意見も出ました。「理事会でも学会のあり方について2年間検討している。県学会は歴史もあり、継続していきたいが、毎年開催するには難しい。その為、県学会より規模の小さな神奈川県作業療法臨床研究大会の開催を予定している」との答弁が再度ありました。

次に、藤沢市保健医療センター田中氏より、「(総会前の講演会～OT協会派遣震災ボランティアを体験して～での講師からの提言を受けて) 災害対策部を今年度の県士会活動として組み込まれるのか」という質問がありました。渡邊会長より「今手元にある議案書は震災前のもので当然、災害対策部等の提言は盛り込まれていない。日本作業療法士協会や他県士会などの情報収集をしながら、必要に応じて今年度は補正予算も念頭に理事会で検討したい」との説明がありました。

普段、県士会ではどのようなことが行われていて、予算はどう使われているのか。なかなか周りには知られてないのが現状です。例えば私たちの年会費はこのような形で、研修会や勉強会の一部として大切に使われていることが総会に出席してわかりました。今回都合により総会に出席できなかった方は、一度総会に出てみると県士会各委員とのつながりも出来るし、色々な情報を知ることができ、臨床の場にもつながります。そして、県士会を運営していくためには、皆さんの協力が必要不可欠です。人が集まることで、意見を交換し合うことで、県士会は成り立っています。来年はOT総会にぜひ参加してみませんか。(文責：事務局員 芳賀)



会長のあいさつ



議長団

総会役員の皆様、お疲れ様でした。**議長** 川口敬之（舞岡病院） **副議長** 佐藤 隼（さがみりハビリテーション病院）**書記** 西尾香苗（新戸塚病院） 渡邊郁美（新戸塚病院）**議事運営委員** 秋本拓哉（日本鋼管病院） 和泉智子（日本鋼管病院）**議事録書名人** 石渡大地（屏風ヶ浦病院） 桐生 翔太（屏風ヶ浦病）**選挙管理委員長** 鴻井建三（横浜市大病院附属市民総合医療センター）

総会の様子

選任された役員（平成23年度・平成24年度）

代表理事 渡邊慎一	理事 浅井憲義	理事 小峰一宏	監事 長谷川元
理事 佐藤直樹	理事 木村修介	理事 中西浩司	監事 清宮良昭
理事 錠内広之	理事 鈴木久義	理事 原 伸一	
理事 澤口 勇	理事 机 里恵	理事 富山 晋	
理事 野々垣睦美	理事 福留大輔	理事 三浦滋子	
理事 作田浩行	理事 奥原孝幸		

講演会**「～OT協会派遣 震災ボランティアを体験して」**

平成23年5月28日(土)ウィリング横浜において第3回神奈川県作業療法士会定期総会が開催されました。それに先だって、ヘルパーステーションふるさとの浅海奈津美先生による「OT協会派遣 震災ボランティアを体験して」というタイトルの講演会が行われましたので、その模様をお伝えします。



今回の東日本大震災では、多くの日本人が、また世界中の方が、「被災地のために何かできないか？」と考えたことと思います。我々作業療法士は、こういう時に、どのような力を発揮できるのでしょうか。そんな問いに、浅海先生は答えて下さいました。

浅海先生は、各団体から連携組織された多職種からなる「生活機能対応専門職チーム」(Dr/PT/ST/SW/介護福祉士)の一員として4月9日(土)から1週間、仙台市若林地区にある若林体育館に現地入りしました。テレビで被害状況を知ってはいたけれど、実際に大木が田んぼに横たわっている様子を見て、事の大きさを実感したとおっしゃっています。1週間にわたりボランティア作業に従事したその主な内容は、避難所の環境整備だったそうです。

体育館として使用していたところに、避難民がやってきます。まだ寒い東北、隙間風をふさぐのも、ボランティアの役目だったそうです。

余暇のために卓球台を用意したり、談話コーナーを作ったり、洗面台の周囲を使い勝手がよいように工夫したりしたそうです。

今回の活動で浅海先生が強く感じたことは、「継続できない支援はしない」「個別支援だけが支援じゃない」「自分はこれがしたいから、他の事はしないというスタンスでは嫌われる」ということだったと言います。

ボランティアに参加する方は、何か役に立ちたいと思っているのですが、被災地のニーズにこたえることが大前提で、独りよがりになってはいけないということを、講演を聞いて感じました。また、被災地の状況は刻々と変わります。それに対応できる柔軟性も、ボランティアには必要と分かりました。時には、「自分は作業療法士だから」という前提は、捨てなければならないのかもしれない。

少しでも震災復興に役に立ちたいという思いがある会員は少なくないと思います。まずは、現地に行ってみることだと、浅海先生はおっしゃっています。お住まいの市町村でもボランティア登録を行っている所もあるようです。また、日本作業療法士協会でも災害対策本部を立ち上げて活動しているので、ホームページをご参照ください。(文責：事務局員 半田)

緊急特集 震災復興ボランティア体験記

東北関東大震災の被災地で、ボランティアとして活躍する人々が増えています。広報部からはすでに4名の部員が（！）復興ボランティアとして現地で活動してきました。今回は緊急特集として現地で活動してきた部員からそれぞれの体験を語っていただきます。

湘南中央病院 広報部ニュース編集班

矢野 竜也さん

今回、岩手県第3次派遣ボランティアとして5月15日～21日に釜石・大槌地区の保険医療リハビリチームとして活動してきました。今回の震災でご家族や家を失われた方に対して何とか立ち直るきっかけでもいから作りたいという思いで参加しました。

現地は想像以上の風景が広がっておりただ立ち尽くすしか出来ませんでしたが、現地の方々は少しずつ復興へ歩み始めていました。被災された方は長期の避難所生活により疲労やストレスは蓄積しており、現地の医療スタッフも疲弊している状況でした。元気な被災者の方はすでに自分の活動を始めていましたが、元々活動性が低い方々はさらに活動性が低下していました。臥床傾向になり起きるのはトイレ時だけとなり、介助量が増えるなどのケースが多くみられました。外出を促したくても、無理に歩いてもらって外に広がっている風景を見せていいものか迷いました。

私たちの主な活動は、各避難所や自宅を回り、長期の避難所生活で体調の不調を訴えている方々に対し支援することでした。現地にはリハビリテーションの支援活動を取りまとめるOTのコーディネーターいました。我々ボランティアは、保健医療チームの一員として、岩手県士会の活動に沿った明確な方針に従って活動しました。被災された方のお話を伺いながら生活動作や体操・ストレッチなどの自主トレをお伝えしていくことや、トイレ等の家屋改修、サービスを受けられなくなってしまった方へのフォローと再度サービスにつなげていくこと、などを目標として介入しました。ほとんどの方は1、2度しか関わることがなく次の週の第4次派遣隊に引き継ぐことになりました。無理に一度に変化させようとせずに、次に来るOTの仲間を信じた行動が求められました。つまりチームとして一人一人の方をフォローし、再び地域生活に復帰していただくことが目標になりました。それぞれの担当者から引継ぎ、活動し、また引き継いでいくことに大きな違和感はなく、むしろ作業療法として新しい視点や価値観を得ることができました。

同時期には、滋賀の温泉病院の部長さんと若手OTのボランティアがいて、彼らとの共同生活を通じて得たものも多くありました。20キロ離れた遠野の精神科の作業療法室で生活したのですが、ライフラインで困ったことはありませんでした。岩手県内陸部ではスーパ

ーやコンビニ、居酒屋なども再開しており、現地の方も過度の自粛ムードから普段の生活へとシフトしていました。

OTボランティアとして一週間、仕事を休み現地で活動するには多くの方々の協力が必要です。しかし「なんでもやろう」という気持ちがあれば、OTとして現地で十分に立つ活動ができると思います。臨機応変にいろいろ対応できる心構えがあればなお良いと思います。ボランティア登録は日本作業療法士協会で行っており、自分のスケジュールに合わせた期間・場所を選べるようになっています。

我々は専門職種です。募金だけでなく現地で活動することも視野に入れ、組織的な支援活動を全員で支えていく必要があると感じました。皆さんも是非ご協力ください。



厚木こころのクリニックデイケア 広報部ニュース編集班

千葉 友浩さん

私は前記された矢野さんの後を継いで被災地に赴きました。岩手県第8次派遣ボランティアになります。6月19日～24日までの6日間釜石・大槌地区の保健医療チーム内におけるリハビリチームとして活動しました。私自身、岩手県に親族が住んでおり、幼い頃からゆかりのある土地でした。今回の震災が起きたことで他人事でなく感じられ、自分でもできる限りのことをしたいという思いで、このボランティアに登録しました。

矢野さんの派遣から一ヶ月が経過した中で行きましたので、その頃より変わったと思われる部分を中心にお伝えします。最初に派遣期間が1日短くなりました。これは地域のデイサービスや訪問看護といった機能が少しずつ回復してきたことが理由に挙げられます。あくまでも私達リハビリチームは地域のリハサービスへ移行するまでの「つなぎ」です。地域の資源に繋がった一部の方は私達のリハビリを終了という経過をたど

っています。また、避難所の閉鎖により、巡回する避難所が少なくなったことも挙げられます。これは仮設住宅が完成し、入居が進んでいる結果と考えられます。以上のように復興と共に現地の医療福祉基盤も少しずつ整備されつつあります。このボランティアも7月いっぱいまで一定の役割を終えそうな話も出ております。第9次派遣ボランティアからはさらに1日短縮され、5日間の派遣となっています。

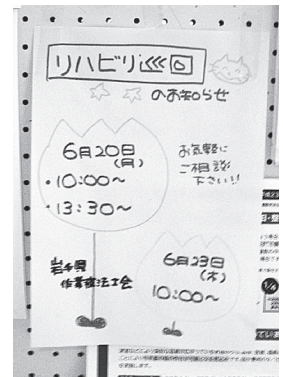
次に今までなかった活動がありました。偶然にも「神奈川県のあるところの医療チーム」からOTリハビリチームへの活動依頼がありました。内容は援助者への心のケアを行うにあたり、リラクゼーション、ストレッチで気持ちをほぐして欲しいとの内容でした。私たちが伺ったのは保育園（施設は被災してお寺で保育を行っていました）と特養の施設でスタッフ対象に30分弱の時間を頂いて行いました。実際に伺ってみると震災当日の様子について涙を流しながら話されるスタッフもいました。仕事上の明るい表情とは裏腹に、内面的には気持ちの整理がおおよそついていない様子が感じられ、このような援助職の方々へのケアも必要であると改めて感じました。

一方で課題もあります。今後は仮設住宅に移行される方に対してのフォローが必要となりますが、避難所と異なり周囲の目が届きにくくなります。特に単身生活の方は場合によっては閉居傾向になることもあり、フォローが難しくなりそうです。仮設住宅入居の抽選の結果、住み慣れていない土地に住まざるえない方もおり、ましてやバスやスーパーなど社会基盤が整備されていない所も多くありますので、高齢者が生活するには周囲の方の援助は必要と感じます。各仮設住宅には集会場の場所が設けられており、そこでOTが高齢者などを対象に体操等して欲しいとの依頼もあったそうですが、基本その地域の方々が自由に出入りできる集会場であり、催し物等でスタッフが独占的に使用することは遠慮して欲しいとの話があったとのこと。様々な要素や考え方があり、いろんな場面で自分自身、考えさせられることが多くありました。

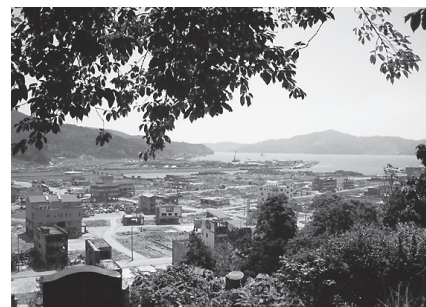
このニュースが発行される頃には震災から4ヶ月が経過していると思います。各地域に派遣されていた行政の保健師チームも撤退、縮小との話を聞きました。決して保健医療チームのニーズがないことはありません。私が主に担当した大槌地区では7月下旬には全ての被災者が仮設住宅に入居できる体制になるとの話を聞きました。現地の包括支援センターや保健所が今後円滑に業務を引き継いで、仮設住宅に住む方への対応がスムーズになされることを祈るばかりです。今回のボランティアを通じて他職種との連携をする中、OTの役割を再確認することができました。そして5年、10年と経過する中で復興する姿を見届けたいと思います。また、時が経ち、釜石、大槌地区に、今度はプライベートの旅行で行ってみたいと思っています。

ボランティアの活動について、日々の状況が刻々と変化しており、このニュースが発行された時に募集があるかは定かではありません。但し募集が続いていた場合、参加できる方はボランティア登録をして頂ければと思います。詳しくは日本作業療法士協会のホーム

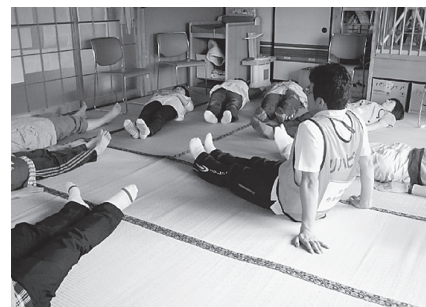
ページ<http://www.jaot.or.jp/>を開くとOT協会災害対策本部の項目がありますので、そこをご覧ください。派遣地は岩手県の釜石、大槌地域の他に宮城県の気仙沼、南三陸、石巻地域もあります。6月21日の内容としてボランティアが足りないということが記述されています。被災地は継続的な支援を必要としていると思います。よろしくお願い致します。



リハビリ手作りポスター



大槌市街地



保育園での体操

「神奈川県作業療法士会も、被災地支援にお手伝いしています！」

横浜新都市脳神経外科病院 広報部対外広報班

酒井由香里

岩手県第7次派遣災害支援ボランティアに参加してきました。その際、対外広報班の活動の一環として、神奈川県作業療法士会広報部でイベント配布グッズとして作成した「ペットボトルオープナー」を被災地へ支援品として持参しました。被災地では高齢者・障害者も避難所や仮設住宅で生活しており、震災から約3ヶ月経過した現在、食料・飲料の支援は充実していますが、自助具等はなく、不便な生活でもあります。今回持参した「ペットボトルオープナー」をお渡しした際は、被災者の方々からも「この避難所には高齢者もいるからありがたい」「こういう支援品はとてもうれしい！」といった声を頂きました。避難所から仮設住宅への移住も始まったばかり。生活支援がまだまだ足りない中、作業療法士の工夫もまだまだ求められるところですね。

連載

青年海外協力隊体験記

～大草原の小さな私～

第3回 災害支援に思う (今回は、宮城・岩手県での災害支援活動の話になります)

青年海外協力隊 平成23年度2次隊 堤由貴子



●執筆者プロフィール

大学卒業後一旦就職するも、退職。その後、作業療法士資格を取得、都内の病院へ3年間勤務。昨年、長年の夢であった青年海外協力隊の試験を受験し、合格。平成23年3月退職し、4月から約2カ月の訓練を経て、協力隊員として赴任予定であった。しかし、東日本大震災を機に渡航を延期し、東北にて災害支援活動を行う。今後は、7月より協力隊訓練予定。

はじめに、この場を借りて、宮城県でお世話になった県士会や地元スタッフの方々、岩手県で拠点となる場所を提供してくださったデイサービスの方々、協力してくださった全ての方々に、深く御礼申し上げます。

「すごくきれいなところなのに。何で何でこんなことになっちゃったんだろう」大船渡のデイサービスのスタッフが、送迎車の中から街の景色を見渡しながら、つぶやいた。車の中には私しか居なかったが、それは、私への言葉ではなかった。誰にとっても言えない、こころのつぶやきだったように思う。

4月16日～21日、私はOT協会から紹介され、宮城県南三陸・気仙沼で支援活動をした。その際は、

地域の保健所のリハビリスタッフがコーディネーターとなり、外部から来たボランティアを支援してくれたため、スムーズに支援活動に入ることができ、専念しやすかったように思う。協会主導のボランティアの内容は、今後様々なところで知ることができると思うので、ここでは割愛する。その後そのまま岩手県大船渡市に移動し、4月22日～5月26日、さらに支援活動を行った。そこではJOCVリハネット(脚注)という団体に属し、大船渡近隣の3つの障害者施設をまわった。

私が大船渡に到着した当初は、私の少し前に到着したボランティアが1人居ただけの状態で、大船渡の行政・医療・福祉に関わる情報が十分に把握されていなかった。そのため、現地がどのような状態か、



復活居酒屋「kaizan」(写真左)。

ボランティア拠点としていたデイサービスのほど近くに、空き店舗の居抜きという形で居酒屋がオープンした。店主は、店舗も家も全て流されたという。それでも、前を向く。「雇用が大事。地元の人は雇用を欲しがっている。だから、少しでも早く店を開けて、店を増やして、雇用を創設したいんだ。」と。

「kaizan」で、3・4月からできていなかった誕生会を「合同誕生会」として祝う人達(写真右) 私たちボランティアもおじゃました。



作業療法士が作ったシャボン玉で遊ぶ女の子。どんぶりと洗剤は、炊き出しを行っていた茨城のうどん店から提供してもらいました。ボランティア同士の助け合いを感じました。



車に杖やコルセット、マットなど、リハビリ関連の物資を積み、避難所を回る様子。



被災された方自身も、ボランティアを行っている（写真左）。
ガソリンスタンドの営業開始。ガソリン供給が停滞する中、地元のスタンドが地域のため、一肌脱ぐ（右）。



全国から色んな団体に所属するリハビリ
スタッフが集まってくる。
医療チーム帯同の理学療法士（左）、宮城県理学療
法士会から派遣されて来た理学療法士（中）。



地元の高校生も炊き出しに参加（写真左）

地酒「酔仙」（右）。酒蔵が流され、壊滅的な被害だったが、従業員全員で、再起を誓う。これは、市内の店舗に残っていた分。炊き出しの際に格安でふるまわれた。売上は、全額寄付するとのこと。



即席で作成した訓練用具（写真左）。
段ボールで織り機をつくって作成したコース
ター（右）。



自分たちのキャパシティの中でいかに関わることができるか、2人で調査することから始めた。最初は、調査や連絡、調整に奔走し、その中で協会の支援から漏れていた3施設の支援に絞った。それらの施設は、震災前には週に一度リハビリスタッフが来ていたが、震災によりそれが止まってしまったという。加えて、物的人的被害によって、利用者の活動範囲が狭まってしまい、それにより廃用が認められるということだった。それに対し私たちが行ったことは、それら3施設をまわり、震災によってレベルダウンした方々に集中的に関わり元の状態へ近づけること、震災以前のリハビリスタッフ訪問と同等の関わりを継続し、最終的に地元のリハビリスタッフに引き継ぐことであった。

ゴールデンウィーク後は私一人での活動になってしまったが、地元のスタッフの方々の協力があつたこともあり、最後まで継続することができた。しかし、この活動が十分にやりきれたとは言い難く、無力さを感じることもあった。冒頭の、地元スタッフの言葉にも、立ち尽くすだけだった。そんな中でも、活動によって改善の兆しが見えはじめた方もおり、一定の成果もあったように思う。しかし、今振り返ってみると、何より「気持ち」を届けたということが大きかったように思う。よく貰った言葉は、「来

てくれるのが嬉しい」という言葉だった。

現地ののがれきの状態は、言葉にならない。それでも、1か月以上見ていると、少しずつ片付いていくのがわかる。しかし、心の傷はそうはいくまい。それでも、地元の人は、立ち上がろうとしている。拠点としていたデイサービスのほど近くに、空き店舗の居抜きという形で居酒屋がオープンした。店主は、店舗も家も全て流されたという。それでも、前を向く。「雇用が大事。地元の人は雇用を欲しがっている。だから、少しでも早く店を開けて、店を増やして、雇用を創設したいんだ」と。そして、ボランティアに対しては、「来てくれること自体ありがたい」とのことだった。地元の人にとって、がんばっていることを見ていてくれる人がいる、応援してくれている人がいる、そのことがエネルギーになっていると感じる。何か特別なことをしなくてもそこに行くこと、それに意味があったと思えた。誰にでもできる、そして実は究極の支援の形のようにも感じたし、作業療法にも通じるとも思う。（文責：堤）

注）JOCVリハビリテーションネットワーク

JOCVは青年海外協力隊員のことです。本会はJOCVにリハビリテーション職種で参加した者を中心に、国際協力に興味のある者が集う会。国際協力に関心があれば、どなたでも入会できます。



OTのためのIT講座

第8回 ①パワーポイントがない！②メモリの増設？ ③スケジュールを共有したい！



講師
石川 敢也さん



松本 前は震災に役立つWebサイトの緊急特集ということでしたけど、今回は予定通りQ&A特集ですね。



石川 はい、そうですね。どんな質問が来てますか？



松本 今回はですね、「①パワーポイントがないPCでパワーポイントのファイルを開きたい」、「②メモリを増設を安く済ませたい」、「③インターネットでカレンダーを共有したい」、というワガママな相談を3つ解決するってことで、どうでしょうか。



石川 わかりました。この会話で誌面を使ってる場合じゃないですね。(笑) さっそくQ&Aに進みましょう！

質問

パワーポイントのファイルを開きたい、無料で

私のパソコンはWordとExcelは使えますが、PowerPointが入ってません。PowerPointを買えばいいのは分かんんですが、値段を見て高くて躊躇しています。何とかありませんか？



回答

見るだけならPowerPoint ViewerでOKです。

パワーポイントのファイルを見るだけならPowerPoint Viewerをインストールすればできます。

PowerPoint Viewerはパワーポイントのファイルを開けるだけで、編集（新規作成や修正など）は一切できないソフトですが、無料でダウンロードすればすぐに使えます。学会や会議の資料をパワーポイントのファイルで渡された時など、とても便利です。マイクロソフトが提供しているので、互換ソフトと違ってレイアウトの崩れなどもなく、安心感もありますね。



PowerPoint Viewerはマイクロソフトのサイトから無料でダウンロードできます。

質問

メモリを増やすとどうなりますか？私にもできますか？

2年前に買った私のノートパソコン、まだまだ新しいつもりなんですけど、「メモリを増設すると早くなる」って言われました。それってどういう効果があるんでしょうか？私にもできるものなのでしょうか？



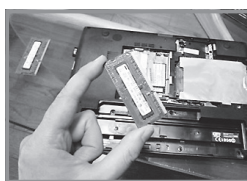
回答

かなり効果があります。自分でも簡単にできますが、不安ならショップにも頼めます。

例えばメモリを2倍に増やすというのは、簡単に言うと作業機が2倍になるようなもので、あらゆる処理が目に見えて早くなります。時間もお金も多くは掛からないので、ぜひやってみてください。コンピューターのアイコンを右クリックしてプロパティの画面でメモリ容量を確認できます。このPCは1ギガバイトのメモリがあります。



これがメモリです。パソコンのマニュアルに従って裏蓋を開けて差し換えるだけです。このときの所要時間は5分。ただし、メーカーの保証が効かなくなる場合があるので自己責任で。



静電気に気をつけながらメモリを差し替えた後です。メモリが2ギガになったのが確認できます。

メモリを購入するときは、パソコンの型番まで細かくメモして持っていくことが大事です。

例えば「東芝のダイナブック」という情報だけでは、店員さんに聞いても対応するメモリを探してもらえません。「東芝のダイナブック、型番はN300AMV/O2AC」まで必要になります。自分で作業するのが不安なら、数千円の手数料で代行してくれるサービスもあります。



質問

インターネットでスケジュールを簡単に共有できるって聞いたんですけど。

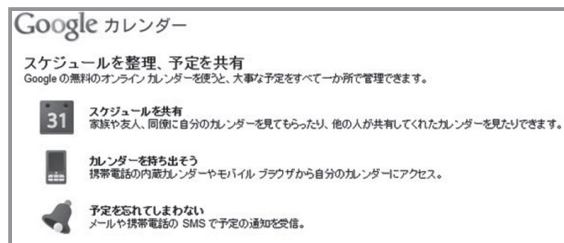
インターネットで友だちとスケジュールを共有するって、かなり便利だと聞きました。私もやってみたいんですけど、教えてください。



回答

Googleカレンダーが便利です。

GoogleカレンダーはWebにあるカレンダーを共有することで、複数の人とスケジュールを共有することができます。



パソコンはもちろん携帯電話からも使えるので、いつでもどこでも確認できて便利です。これで「言った言わない」のケンカもなくて済みますね。(笑)

この連載ではお馴染みのグーグル。検索だけじゃないんです！

Googleカレンダーには、予定の日時になったらメールで知らせてくれる通知機能もあります。

通知先を携帯メールに設定すれば、目覚まし時計の代わりに使うこともできます。

普通の目覚まし時計は12時間前（デジタルなら24時間前）しかセットできませんが、Googleカレンダーのアラームなら何日も前からセットすることができて便利です。

地域リハビリテーション部

地域リハ推進班

当事者団体の活動を知る

地域リハビリテーション部では「関係職種・機関・組織との連携や神奈川県民との連携により地域リハビリテーションの普及・推進を図る」目的として、障がい者（当事者）団体の活動の広報をおこなってきました。

昨年度お伝えすることができなかった内容を掲載させていただきます。

NO.146号に掲載しました「日本てんかん協会 神奈川県支部」。代表の森氏に当会ニュースヘメッセージをいただきました。初心に戻り、当事者の方々が発する声を受け止めてください。

てんかんのある人への援助

日本てんかん協会神奈川県支部 代表
森 敏一

[1] はじめに

作業療法士の皆さんに、てんかんのことを知っていただく意味は何でしょうか。

皆さんがサポートしている方々の中に、てんかんのある人がいた場合、とまどうことが無いようにすることだと思います。

親としての個人的体験・神奈川県支部代表としていろいろ出合った事例・多少の学びから得られた私なりのてんかん理解と欲しい援助を書いてみます。専門家でないことをご了承ください。

詳しいことをお知りになりたい方は、最後の参考文献をお読みください。

[2] 100人100様

てんかんというと、突然に強直しけいれんし倒れるというイメージを持つ方もいるかもしれませんが、これは、強直間代発作というてんかん発作の一つの形（型）に過ぎません。てんかん発作の形は、国際分類によると40くらいあります。

人の身体は、脳の命令を神経が伝えることで動いています。神経が働くには微弱な電気が必要です。脳の一部もしくは全体で、電気の強い活動が突然生まれると、脳のその部分が担当している身体の一部が異常な反応を示します。その異常な反応が40くらいあるということです。

何回も繰り返して、突然起きるその異常な反応を「発作」といっています。

40くらいの発作型といっても、細かく見ると、一人ひとり発作の様子は微妙に違いがあります。100人100様と言っているのが私の感想です。

従って、皆さんがてんかん発作のある人を支援する場合は、その人の発作の様子と対応の仕方を、前もって関係者に聞いておくことが、安心して対応するポイントになります。

[3] 救急車を呼ぶのは

通常、てんかん発作で救急車を呼ぶ必要はありません。呼ぶ必要があるのは次の様な場合だけです。

- (1) 全身のけいれんが10分以上続くとき。
- (2) 1回の発作が止まっても意識が回復せず、また発作が起きるということを3回以上続けるとき。（てんかん発作が30分以上持続する場合を「発作の重積」といいます。発作と発作の間で意識が回復するものは、重積とは言いません。）
- (3) 短い発作だったが、かなりの怪我をした場合。
注：転倒して頭を強く打った場合は、しばらく様子を見ます。普段より明らかに意識の回復が遅い場合やもうろうとしている場合は、病院に行ったほうが良いでしょう。

[4] てんかんと精神症状

てんかんに伴う精神症状（統合失調症に似た幻覚・幻聴などやこだわり・感情の激しさなどの性格変化）を持つ人もいます。「てんかん性格」といわず「てんかん性格変化」というのは、てんかんの人すべてに共通しているわけではないこと、又、「性格変化」がある人でも、てんかんが治れば性格も穏やかになることからその言葉を使います。精神症状には、てんかんとは別の対応が必要です。

[5] てんかんと発達障害

発達障害には、知的障害、自閉症、アスペルガー症候群、学習障害、注意欠陥多動性障害などがあり

ます。てんかんと発達障害を合併する人がいますが、それぞれへの対応が必要になります。

【6】てんかん患者と生活

(1) プールと入浴

作業療法士の方がここまでかわかることは無いと思いますが簡単に記します。

プール：一般には泳いでいるときより、プールから上がってほっとしたとき、プールサイドで発作を起こすことが多いので、水際から離れて休むようにしましょう。しかし、泳いでいるときにも発作になることはあるので、監視は必要です。もし水の中で発作が起きてばたばたしているようだったら、後ろから抱きかかえ呼吸を確保し（前だと抱きつかれ一緒に沈む危険があります。）出来るだけすみやかに水からあげると良いでしょう。

お風呂：施設では監視者の注意が大切です。旅行などでは、複数で入ることが大切です。家では、いつ発作が起きるかわからない人の場合は、時々声かけをしたり、音に注意しているなどをします。万一の時は、顔をあげ呼吸できるようにし、風呂の水を抜きます。（音や人影の動きを他の部屋でわかるシステムもあるとのこと。）シャワーで済ませる人も沢山います。（四方から温水が出て湯に入っているのと同じような感じになれるシャワーもあるとのこと。）何年も発作が無く元気な人が、風呂でおぼれることがあります。

そんな人への対応は悩ましい問題です。

(2) お酒

禁止という医者さんと、「ほろ酔い程度で」という医者さんといえます。本人の症状に合わせて決定することのように思います。

(3) 睡眠

十分な睡眠をとることは、てんかん患者にとって、薬の次に大事なことです。

(4) 人間関係

幼児期の発症のため、十分な社会体験が出来ず、また自己充実の経験が無いことから人間関係がうまく取れない人、脳出血などの中途障害のためプライドから人間関係がうまく出来ない人のほかに、てんかんに伴う精神症状、てんかんとは別の精神障害を持っているため人間関係がうまく出来ない人などがいます。

前2者の場合は、本人への丁寧な説明が必要だと思います。後の2つの場合は、是々非々での対応が必要のように思われます。

人間関係を自分から求めない人もいます。しかし、人は人間関係なしには生きられないので、どういう条件があれば、人間関係をうまくつくれるようになるのか工夫が必要になるでしょう。

人間関係を求めようとしても、避けられてしまうケースもあります。地域ボランティアのネットワークをつくるなど、一人ひとりにそった、

人間関係が豊かになる工夫をする必要があると思います。

(5) 社会的支援を

学校や病院への移動支援は、自立支援法では、利用できません。そうした制度を、「ニーズに応じた支援」にしていくため、現在行われている「障害者制度改革推進会議」の「障害者総合福祉法」作りに、積極的な関心を持って行きたいものです。

【7】最後に

同じてんかん患者といっても微妙な違いがあります。又、重複障害の人もあります。

そんな意味で、最初に「てんかん患者は、100人100様です。」と書きました。

作業療法士の皆さんが、てんかんのある人をサポートする場合、発作の型や対応の仕方を、本人や家族の方からよく聞いておくと思える対応できると思えます。

又、その人の性格や生活の質（趣味・興味・大事にしていること）を知っていただき、尊重していただけるとありがたいと思います。

【8】参考図書

(1) 『てんかん、こうして直そう 治療の原則』

久保田 英幹著 発行：日本てんかん協会
定価1,600円+税

※てんかんの基本的なことがわかります。

(2) 『てんかんテキスト、理解と対処のための100問100答』

清野 昌一・八木 和一共著 発行：南江堂
定価3,200円

※問答形式で基本的なことがわかります。

(3) 『てんかん発作、こうすればだいじょうぶ 発作と介助』

川崎 淳著 発行：日本てんかん協会
定価2,000円+税

※代表的な発作とその介助法を実演したDVDが付いています。

(4) 『てんかんのすべてがわかる本 治療と生活から心理・福祉まで』

河野 暢明著 発行：株式会社法研
定価1,575円

※臨床心理士が書いた本。医者の書いた本とはちがう良さがあります。

(5) 『新 てんかんと私 ひびけ、とどけ！ 34人の声』

日本てんかん協会編 発行：萌文社
定価2,100円

※患者本人や家族の生の声がまとめられています。

(6) 『日常生活のためのてんかんのくすり』

日本てんかん協会編 発行：日本文化科学社
定価2,500円+税

※てんかんの薬の基本の本です。

各部からの報告

○県士会サイトのURLが変更されました

新URL <http://kana-ot.jp/>

ご面倒をおかけしますが、ブックマーク、リンク等の変更をお願いいたします。

県士会サイトのドメインの変更にもともない、県士会関連のメールアドレスも以下のものへ変更されました。メール送信時には、新しいメールアドレスを使用して下さい。旧アドレスは今年度中に使えなくなる予定です。メールソフトのアドレス帳等への登録変更をお願いいたします。

使用部署	新メールアドレス
事務局・一般使用	jimu@kana-ot.jp
事務局・研修会申込用	ken-ot@kana-ot.jp
教育部	kyoiku@kana-ot.jp
財務部	osaifu@kana-ot.jp
地域リハビリテーション部	chiikireha@kana-ot.jp
ウェブサイト管理委員会	kaot@kana-ot.jp

ウェブサイト管理委員会：作田

ウェブサイト管理委員会

○<http://kana-ot.jp/> 裏話

よこ太：ウェブ管の人から裏話聞いちゃった！
 ハマ子：またセラバンドないよー、またあんだでしょ？
 よこ太：あれ!? 裏話興味ないの？
 ハマ子：言いたいんでしょ。だったら早く言いなさいよ。
 よこ太：へへへアドレスが.comから.jpに変わったでしょ。
 なーんでだ？
 ハマ子：で、黄色いのが必要なんだけど！
 よこ太：あぁあれ!? 興味ないの？
 ハマ子：そんなことどーでもいいもん。閲覧さえできれば。
 よこ太：うっ確かに…
 ハマ子：.comは営利団体向けのドメインで.jpは汎用ドメイン。
 非営利団体の県士会に.comは向かない。だから変更したんでしょ。
 よこ太：ううっなんで知ってるの!?
 ハマ子：.comのドメインは取得料が安いよ。これを取得した2004年頃は県士会の予算も少なかったしね。今回のサーバーの引越をきっかけに、ドメインの変えたわけね。早くセラバンド！
 よこ太：はいっえっと…電車ごっこして…どこに置いちゃったかな？

(文責：ウェブサイト管理委員会 作田・大澤)
 新URL：<http://kana-ot.jp/>

平成23年5月アクセスランキング

1位 再学習・筋触診 7240件
 2位 講習会・研修会 5220件
 3位 求人情報掲載板 3294件
 4位 作業療法Tips 2135件
 5位 自助具INDEX 1601件

平成23年5月県士会ブログランキング

1位 ウェブ管的知恵袋 147件
 2位 ひよっこOT日記 146件
 3位 艶姿☆男前☆手芸部！ 121件

更新件数：49件 訪問者延べ数：11439人
 Kanaからの手紙発行回数：7回
 Twitter (ID:kaotwebkan)：フォロアー82名

地域リハビリテーション部

○《4月～7月の活動報告》

- ①訪問リハ実施施設のアンケート調査準備
- ②認知症作業療法実態把握調査準備
- ③地域リハ勉強会 (PSW協会合同) 打ち合わせ
- ④訪問リハ実務者研修会 (PTST合同) 打ち合わせ
- ⑤パイロット事業準備、打ち合わせ
- ⑥特別支援学校を中心としたタウンミーティング準備

・パイロット事業のブログ『ALS支援ブログ@KAOT』を立ち上げました！
 県士会ウェブサイトでご確認ください。
 ・各種アンケート調査を順次実施していきます。ご協力よろしくをお願いいたします。
 ・各種研修会をご案内しています (ウェブサイト要確認)。是非ご参加ください。
 (文責：地域リハビリテーション部 木村)

○平成23年度 日本作業療法士協会 事業部 主催研修会

「作業療法フォーラム (訪問リハ関連を予定)」

日程：2011年9月25日(日)

会場：日石横浜ホール

詳細や申込方法は協会ニュース、ホームページにてご案内致します。

教育部

○連載！

県士会ウェブサイトから質問ができます！

「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」

今号の「お届け！生涯教育制度、あれもこれも」は、今年度の教育部主催のOT協会生涯教育制度関連の研修会の予定をお知らせします。

1. 現職者共通研修：全10テーマ、生涯教育制度の必須基礎研修で、テーマ毎に受講します

第1回現職者共通研修 9月3日(土)～4日(日) 横浜リハビリテーション専門学校

第2回現職者共通研修 11月23日(水祝) ウイリング横浜
 ＊今号チラシに詳細が同封されています。ご確認の上お申し込みください。

申し込みは、回ごと、個人ごとにてお申し込みください。
 第3回現職者共通研修 2012年3月4日(日) 「事例検討」・「事例報告」 ウイリング横浜

＊詳細は次号以降にお知らせしますが、事例報告予定者は今から準備をお願いします。

2. 現職者選択研修：領域別 (身体・老年期・精神・発達) の生涯教育制度必須基礎研修で、2領域を選択受講します。一領域：90分×4コマの受講が必要です。コマ単位での受講も可能です (受講したとは認められません)。

＊今年度は、発達障害領域、精神障害領域を開催します。詳細は決まり次第お知らせします。

・発達障害領域 2012年2月4日(土) ウイリング横浜
 ・精神障害領域 2012年2月5日(日) ウイリング横浜

3. 事例報告登録制度研修会：事例報告登録は認定作業療法士申請に必須です。OT協会学術部にご協力いただき開催予定ですが、詳細は未定です。

ご不明の点をご連絡ください。県士会ウェブサイトからもご質問ができます。

教育部 奥原孝幸 (昭和大学) 045-985-6500 (代)、
 kyoiku@kana-ot.jp (あを@に)

理事会 報告

平成23年度 第1回 一般社団法人 神奈川県作業療法士会理事会 抄録

日時：平成23年6月15日(水) 19:00～21:10 場所：神奈川県作業療法士会事務所

出席理事：錠内、浅井、奥原、木村、作田、小峰、野々垣、原、福留、三浦、澤口

出席監事：清宮、長谷川

委任理事：渡邊、佐藤、鈴木、富山、机、中西

その他：大郷、中尾（事務局書記）、松本（広報部）

●錠内副会長より挨拶

- ・理事会日程：震災の影響で当初第1回理事会は5月予定だったが、本日に延期となっている。第2回以降は議案書のとおり、奇数月にて開催することを確認。

●財務部（野々垣理事）

- ・部員承認（3名）：長谷龍太郎（県立保健福祉大学）、坂本太郎（横浜労災病院）、有山陽子（中途障害者地域活動センター都筑むつみ会）⇒承認
- ・今年度会費振込用紙を発送（1,513通）した。コンビニ決済の納入期限は9月末まで。webサイトへ掲載依頼済み。
- ・平成23年度監査報告（清宮監事）：5/15実施。前期まで予算案の収入の部で繰越金の中に資本金が含まれていた。今後は予算案から資本金を除いたものに修正を求められる。

●学術部（福留理事）

- ・部員承認（21名）：鴻井建三（横浜市立大学附属市民総合医療センター）、佐藤悦子・木村幸子・大寺亜由美・成田香代子・前場洋佑・佐々木秀一（北里大学東病院）、竹内寛人（北里大学病院）、小松里絵・篠田理恵（新戸塚病院）、西前英紀（藤沢病院デイケアセンター）、佐野生美子（国府津病院）、川口敬之（舞岡病院）、望永和美（百合丘地域生活支援センターゆりあす）、佐藤雅也（横浜総合病院）、林市朗（あさひの丘病院）、友利幸之介（神奈川県立保健福祉大学）、永井善大（横須賀市立うわまち病院）、石川哲也（横須賀共済病院）、安部剛央（衣笠病院）、貫久美子（衣笠病院長瀬ケアセンター）
- ・研修会を随時開催（精神分野：7/24 講師：菅沼映里氏＜OT＞）（職場管理者養成講座：7/30 講師：中村浩明氏＜PT＞）

●教育部（奥原理事）

- ・部員承認（15名）：西尾香苗（新戸塚病院）、芳村紘恵（横浜相原病院）、本藤広美（衣笠病院）、山口由花（汐田総合病院）、宮田千恵子（自宅）、小山恭子（横浜旭中央総合病院）、武井寛道（藤沢病院）、南波裕子（麻生総合病院）、加川里花（介護老人保健施設湘南の丘）、大場文（介護老人保健施設アゼリア）、足立夏帆里（東海大学医学部附属病院）、石井有希（横浜リハビリテーション専門学校）、金子康（介護老人保健施設湘南わかば苑）、今田雅子（独立行政法人国立病院機構相模原病院）、藤原康子（県央地域就労援助センター）
- ・現職者共通研修予定（①9/3～4：3日終了後は福利部主催新入会員オリエンテーション&歓迎会予定、②11/23、③3/4）
- ・事例報告登録制度研修会：現職者共通研修の中に県士会講座として組み込んだの実施を検討中。

●広報部（小峰理事）

- ・部員承認（15名）：松本政悦（横浜市総合リハビリテーションセンター）桜井大和・福島ひとみ（佐藤病院）、大宮幸恵（つづき病院）、菊池美帆（介護老人保健施設しらさぎ苑）、千葉友浩（清川遠寿病院）、矢野竜也（湘南中央病院）、堤由美子（青年海外協力隊）、酒井由香里・八木橋絵美・水野友和・青木健・久保田友佳・増田理恵（横浜新都市脳神経外科病院）、馬場順子（横浜市精神障害者就労支援センターぱーとなー）、
- ・学生向けの啓発活動（新宿セミナー横浜校での講演）の実施
- ・地域関連職種への啓発活動（YOTECにブース出展）の実施

●福利部（錠内副会長代読）

- ・部員承認（8名）：大谷内郎（けやきの森クリニック）、椎野絢子（平塚共済病院）、三森夏穂・奥田萌（汐田ヘルスクリニック）、畠中佳代子（藤沢市民病院）、橋本早紀（関東労災病院）、平村徹（済生会神奈川県病院）、秋本拓哉（日本鋼管病院）
- ・新入会員オリエンテーション&歓迎会を9/3現職者共通研修会終了後を予定。内容については次回の理事会にて報告する。

●地域リハビリテーション部（木村理事）

- ・部員承認（14名）：河村晃依（北里大学）、井上亜紀子（鶴見南訪問看護ステーション）、金沢隆之（相模原市役所介護予防推進課）、柴崎千種（新緑脳神経外科）、足立雄介・小室容子（鶴巻温泉病院）、末吉藍氏（新戸塚病院）、原島淳・田中裕美子（川崎市北部リハビリテーションセンター）、酒井広樹・山道三奈子（ライフプラザ新緑）、吉川雅子（神奈川県立茅ヶ崎養護学校）、千田理美（新緑訪問看護ステーション長津田）、高橋茂喜（神奈川県立金沢養護学校）
- ・第2回訪問リハ実務者研修会（8/20～21）を予定
- ・OT/PSW共催で合同研修会（9/18）を予定
- ・OT協会パイロット事業講習会（7/9・8/20・9/10）を予定
- ・訪問リハビリテーション事業所における訪問OT実施度の調査予定

●福祉用具委員会（錠内副会長代読）

- ・部員承認（12名）：木下剛（済生会横浜市東部病院）、沼田一恵（横浜らいず）、田中秀和・牧山大輔（横浜新都市脳神経外科病院）、川辺均（茅ヶ崎新北陵病院）、田畑雄吉（ふれあい平塚ホスピタル）、三村ゆり（新戸塚記念病院）、川上新（済生会神奈川県病院）、菊池泰雅（ナーシングピア横浜）、佐谷瑞紀（レストア横浜）、網谷麻じ里矢（大和徳洲会病院）、金原衣理子（横浜宮崎脳神経外科病院）
- ・HCR：東京都士会と展示及びセミナー企画について検討中

●社会保障制度対策委員会（三浦理事）

- ・部員承認（5名）：窪田聡・出口弦舞（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）、小林志帆・横川知奈（神奈川県病院）、清亜由子（茅ヶ崎徳洲会総合病院）
- ・平成23年度事業計画に基づき計画を立案中

●ウェブサイト管理委員会（作田理事）

- ・部員承認（7名）：金子香葉子（池上総合病院）、佐藤良枝（曾我病院）、大澤（昭和大学）、福嶋祐子（汐田総合病院）、平澤友与（新戸塚病院）、水野玲子（東海大学医学部付属大磯病院）、三苫幸恵（ハートフル川崎病院）
- ・ドメインの変更作業を実施中／ウェブサイトへの掲載が向かない原稿について：①②などの丸数字は機種依存文字であるため不可。原稿中に使用しないようお願いしたい。

●学会評議委員会（原理事）

- ・部員承認（3名）：田中ゆかり（藤沢市保健医療センター）、岡田貴富（相模原市立陽光園）、川口美緒（湘南敬愛病院）
- ・第1回神奈川県臨床作業療法大会・大会長の推薦→鴻井建三（公立大学法人横浜市立大学附属市民総合医療センター）⇒承認（2012年4月15日：川崎市立産業文化センターを予定）
- ・第14回神奈川県作業療法学会・学会長の推薦→菅原洋子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）⇒承認（2013年4月中旬～下旬を予定）

●企画調整委員会（浅井理事）

- ・部員承認（1名）：鈴木孝治（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）

●事務局（澤口事務局長）

- ・国土交通省：高齢者等住居安定化推進事業（住まいのバリアフリーリフォーム支援事業）をかながわ住まい・まちづくり協会が受託。その事業遂行のために県士会へ協力依頼があり、5/30に調印。→家屋評価等のため9名のOTを派遣→長谷龍太郎（県立保健福祉大学）、佐藤直樹（川崎社会保険病院）、錠内広之（日本鋼管病院）、村越妙美（川崎協同病院）、名古屋和茂（横浜YMCA学院専門学校）、机里恵（横浜リハビリテーション専門学校）、福留大輔（新戸病院）、大寺亜由美（北里大学東病院）、木下剛（済生会横浜市東部病院）
- ・災害対策について：継続審議

※紙面の都合で一部割愛しています…詳細は県士会Webをご覧ください（文責：澤口）



求人

作業療法士募集

回復期リハ増床（1病棟40床から2病棟92床へ）のため

募集人員：常勤5名～10名

施設概要：法人として、1病院（267床）1老健施設（80床）
8診療所
デイケア、デイスサービス、訪問看護ステーション、ヘルパース

待 遇：テーション、包括支援センター等を運営

遇：当法人規定により優遇。経験年数加算。
昇給年1回。賞与年2回。

福利厚生：各種社会保険、共済保険、退職金制度

勤務時間：9：00～17：00

休 日：現在4週6休、

夏休み4、5日、冬休み6日、初年度有給休暇10日

そ の 他：学会、研修会参加、院内学習会あり

病院勤務者の他、老健、デイケア勤務者も同時募集
応募方法：電話連絡の上、履歴書を持参又は下記宛に郵送して
下さい。

（見学は月、水、金の午後）

交 通：川崎駅より大師線バス15分、桜本バス停下車

川崎医療生活協同組合

川崎協同病院

〒210-0833 神奈川県川崎市川崎区桜本2-1-5
TEL:044-299-4781(代表)044-277-2127(直通)

採用担当 小林

Eメール h.kobayashi@kawaikyo.or.jp

URL: http://kawasaki-kyodo.hospi.jp



求人

作業療法士募集

当院は高齢者の知恵のなかに私たちの展望があるのと
とらえて回想法を中心に行っているほか、個別リハ、集
団リハをおこなっている。

募集人員：正社員1名又はパート社員数名

施設概要：漢方中心にした診療所を母体に28名のデ
イケア室のほか、デイスサービス、グループホ
ーム、居宅事務所を地元商店街近隣に配置
している。

勤務時間：8時15分から17時

休日休暇：4週7休

福利厚生：各種社保完備、男子独身寮。

応募は随時。

交 通：京浜急行大師線鈴木町駅7分。

柳田診療所・（有）明寿会

電話：044-233-0061

E-Mail cbs59960@pop21.odn.ne.jp

担当者：柳田



求人

作業療法士募集

※医療と介護の連携を積極的に推進している病院です。

募集人数：常勤 8名（経験者優遇）

施設概要：120床（一般病棟60床・回復期リハ60床）

業務内容：回復期・急性期・外来リハビリテーション

※今年度中に訪問リハ開始予定

待 遇：給与 213,000円～279,400円

賞与 年2回

勤務時間：8：30～17：30（休憩60分）

休 日：土・日・祝日の日数分（シフト制）

夏季休暇2日・冬季休暇3日

交 通：田園都市線「市ヶ尾」駅徒歩4分

応募方法：電話連絡の上、履歴書を郵送下さい。

見学随時対応

社会福祉法人 中川徳生会

市ヶ尾カリヨン病院

〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町23-1

TEL: 045-511-7811

MAIL: a.sato@carillon-med.jp

担当：事務部 佐藤



求人

作業療法士募集

当施設は「老健」の特色を生かし、またリハビリを「売り」
としてサービスの質向上に努めています。落ち着いた環境で一
緒に働きましょう！！

【施設概要】介護老人保健施設 入所132床（一般102、認知
30）、通所40名

パワリハ機器完備、リハスタッフ10名

【募集人員】1名（常勤）※非常勤可 ご相談下さい

【待 遇】グループ規定により優遇。経験年数加算有り

昇給年1回 賞与年2回 交通費全額支給 保育

所完備 独身寮完備

教育研修システム 退職金制度 各種社会保険

車通勤歓迎（職員駐車場）

【勤務時間】9：00～17：30（7.5h）

【休 日】完全週休2日（希望OK）有給休暇

【そ の 他】学会、研修会、勉強会など充実しています

グループ内44施設（病院、リハビリ病院、訪問ス

テーション、老健、GH、他）が一都四県にあります。

スキルアップや転居時にも対応可です

【交 通】JR「戸塚駅」「大船駅」よりバス15分

【応 募】随時電話連絡の上、履歴書をお送り下さい。

担当）事務長 池田、事務部人事担当 大熊

医療法人 柏堤会（財団）

介護老人保健施設 ヒューマンライフケア横浜

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町1800-3

TEL 045-866-2000 FAX 045-870-1565

Eメール hlc-y@d7.dion.ne.jp

HP 「ヒューマンライフケア」で検索 Yahooでは5番目に出てきます



講習会

第22回神奈川人間作業モデル事例検討会・ミニレクチャー開催のご案内

日 時：平成23年9月4日(日) 13時30分から17時まで
内 容：

- 1) 人間作業モデルミニレクチャー（詳細は決定次第、学会HP・県士会HPに掲載します）
- 2) 人間作業モデルによる事例検討

講 師：山田孝先生

人間作業モデル評価法のマニュアル各種(2,500円～)の販売も予定しています。

場 所：神奈川県立保健福祉大学

神奈川県横須賀市平成町1-10-1

(JR京浜急行県立大学駅下車徒歩5分)

参加費：作業療法士 1,500円 学 生 1,000円

E-mail arikawa-m@kuhs.ac.jp

作業療法士生涯教育ポイント対象(1ポイント)

*お申込みは、E-mailに以下の事項を記載し、件名「第22回神奈川人間作業モデル事例検討会・ミニレクチャー申込み」で送信して下さい。事例発表希望者も募集しています。事例発表を希望する方はその旨をご連絡下さい。

1. 氏名、2. 所属先、3. 返信先アドレス

主催：日本作業行動学会



講習会

身障OTスキルアップセミナー(第一回) 「CVAに対する作業療法介入理論と臨床実践スキル」

2011年 10月1日～2日(土日) 予定

会 場：中部大学

参加費：5000円(1日参加3000円)

今回は事前にお金を振り込んでいただきます。

日 程：1日 12:00～13:30 14:00～17:00、
2日 10:00～11:30 12:30～15:30

(内 容)

- ☐脳科学作業療法理論～対象操作スキルの学習と作業療法
- ☐CVAの上肢障害に対する機能的改善を促す臨床テクニック
- ☐運動失調症に対する対象操作能力改善の臨床テクニック
- ☐CVAの生活動作障害に対する動作誘導の臨床テクニック

講 師：澤 先生(藤田保健衛生大学)

淵 先生(誠愛リハビリテーション病院)

酒井 浩(京都大学)

申し込み期間(申込期間中に振り込みをお願いします。)

平成23年4月18日～平成23年7月31日(定員になり次第終了いたします。)

申し込みは以下のようにメールにご記入ください。

件名 協賛企画(10月)

参加者協会会員番号 参加者氏名 参加者所属施設 参加日(1日 2日 両日)

メールアドレス aichiotkenkyukai@gmail.com

送信後、返信された文章に、振込先が記載されますので、そこに近道中に振り込みをしてください。

振り込み確認後、本登録となります。<http://aichiot.sakura.ne.jp/>を定期的に確認ください。



講習会

第12回 関節ファシリテーション (SJF) 学術集会 北九州大会

テーマ：「関節疾患とSJF～関節リウマチについて～」

日 時：平成23年9月18日(日)、19日(月・祝)

内 容：基調講演：宇都宮 初夫(JM研究所 所長)

大会長講演：山本 真一郎(二田水整形外科医院)

シンポジウム 一般演題発表 ポスター発表

会 場：北九州市男女共同参画センタームーブ

会 費：会員6000円 非会員8000円 学生2000円

登録方法：九州北支部ホームページからの登録および
郵送による申し込み

<http://sjf-knp.news-site.net/>

4月1日(金)から受付開始

問合先：北九州大会総合事務局

〒821-0861

福岡市博多区浦田1-11-15

林整形外科医院 リハビリテーション科

事務局長 伊藤 康宏

E-mail: sjf_f_jimukyoku@yahoo.co.jp



講習会

第34回日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG講習会 in 神戸

日 程：2011年8月22日(月)～23日(火)

主 催：日本リハビリテーション工学協会 車いすSIG

共 催：一般社団法人日本車いすシーティング協会

会 場：ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-5

定 員：下記講習内容参照(先着順)

参加費：12,000円・14,000円・16,000円・20,000円

(加盟団体等により異なります)

内 容(コース選択制)

■ アクティブ・バランス・シーティング(ABS)(定員30名)

■ 高齢者・片まひ者の車いす(定員40名)

■ シーティングと走行性能の理論と実際(定員30名)

※社団法人日本作業療法士協会「生涯教育制度」基礎ポイント対象研修会(予定)

申込締切：7月15日(金)(定員になり次第受付を終了させていただきます)

※講習会情報詳細は下記ホームページに掲載予定(6月中旬)です。
申込書をプリントアウトの上FAXにてお申し込みください。

車いすSIG講習会事務局

横浜市リハビリテーション事業団 事務局 経営部

(横浜市総合リハビリテーションセンター 研究開発課) 内

担当 深野栄子

TEL.045-473-0666 FAX.045-473-0836

<http://www.wheelchair-sig.jp>



第45回日本作業療法学会 ～意味のある作業の実現～

平成23年6月24日から26日まで、埼玉県さいたま市大宮ソニックシティで開催された第45回日本作業療法学会～意味のある作業の実現～に行ってきました！

今年の学会は、学会長講演と特別講演が4題、シンポジウム6題、市民公開講座1題、口述発表5題、ワークショップ7題、ポスター発表841題という内容でした。講演やワークショップのいくつかは満席となることもあり、熱心な参加者が多く参加していました。

学会のタイトルにもあるように、対象者にとって意味のある作業とは何か発表者自身が問い考えながらそれぞれに答えを出しており、見応えのある発表が多かったです。

ポスター発表では講習会の講師をされている名だたるOTも名を連ねており、ここぞとばかりに質問

に行く参加者が多く、すごい人だかりとなっている状態でした。私もポスター発表で「箸の操作訓練における知覚再学習」を発表させていただきました。大汗をかきながら質問に答えさせていただきましたが、この盛り上がりに参加できた充実感を味わうことが出来ました。普段自分が関わることのない分野の考えも知ることが出来て、少し視野が広がった気がしました。

残念ながら満席で、入ることすらできなかったワークショップもありましたが、来年はもっと攻めの姿勢で参加し、より充実させたいと思いました。一人職場や、少ない人数で頑張っておられる方ほど自分から発信し、意見を求める場として活用して欲しいと感じました。今年参加された方、運営に携わった方、本当におつかれさまでした。来年の学会は「健康な生活を創造する作業療法の科学」というテーマで宮崎県で開催されます。

<追記>今回の学会では、東北関東大震災被災者支援に関わる報告会が新たにプログラムに追加されていました。被災された県の方々も、特設ブースで現状を伝えていたり、募金や応援メッセージを募っていたりと積極的に活動されていました。復興に忙しい中、本当に頭が下がります。また、多くの参加者が、募金活動に協力していました。みんながみんなを想う気持ちが伝わって現地の活動の助けなることを願います。

先日誕生したOTの仲間のお子さんの誕生を祝って、璃乃ちゃん、リーノ！（ハワイで光り輝くという意味らしい）。東北に、光よ届け！（文責 矢野）



ポスター発表会場の様子



震災復興募金のブース



一般社団法人 **神奈川県作業療法士会ニュース**

< 150号 > 2011年7月発行（年6回発行）

発行責任者 渡邊慎一

編集責任者 小峰一宏

編集担当 松本政悦・大宮幸恵・菊地美帆・千葉友浩・矢野竜也・堤由貴子

印刷 発送 第一資料印刷株式会社

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町4-45 第一国際ビル301号 TEL/FAX: 045-663-5997
月火水木金 10:00～16:00 メールアドレス: jimu@kana-ot.com

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト <http://kana-ot.com/>

作業療法 神奈川

検索